この写真で注目していただきたいのは、
倒れている石ではなく、中央の枯れた木。
この夏の山火事は、このオリンピア遺跡のそば
まで来ていたのです。
ここは、ペロポネソス半島の西端。
ここから、半島の東側、アテネの近くまで、
広大な領域が山火事で燃え、焼けたところは
黒い炭となった木、その周辺は、この写真の
ように木が枯れてしまっている。

エピダウロス遺跡

古代劇場跡:
その音響効果のすばらしさに感激。
収容人員 14,000 人と言う巨大な劇場だが、その最上階でも、舞台の中央での会話も、紙を破いたりする音も、ハッキリ聞こえる！真ん中の円を中心とした完全な円形の配置で、座席も通路も全て大理石で、音響効果の設計がすごい。
2500 年前の劇場だそうだが、現在も、ここで公演が行われているそうだ。

最上階から見たとすると、僕の視力では役者の表情は読めないが、その科白から息づかいまで、確実に聞こえる。

こんな開放的な空間で見るギリシャ悲劇とは、どんな感じになるのか、是非見てみたい！

日本では弥生時代前期に当たる頃、万人を越える人が全国から集まり、4年毎のオリンピックや、毎年のギリシャ悲劇の競演を行っていた。プラトン、ソクラテスで感じる以上の、社会文化としてのすごさを感じる。

オリンピア博物館:
ギリシャ文化の特徴である彫刻や陶器が主体であったが、その中で異色のこの青銅の像(←)が気になった。
ギリシャ語の説明が読めなかったので、なんだか分からないが、まるで中国の三星堆遺跡の青銅遺物と同じような異様さを感じた。

ギリシャ文化の再々発見は、19世紀にドイツ人により、
古代ギリシャ人はアーリア民族で、エジプト・中近東のアジア系文化とは異なる独自文化であり、これがヨーロッパ文化のオリジンだ、と言われ出したのが底流にあるようだが・・・「黒いアテナ」、
この青銅器の像(だからギリシャ・クラッシクの前と思うが)を見ていると、エジプト文化の影響の感じる。